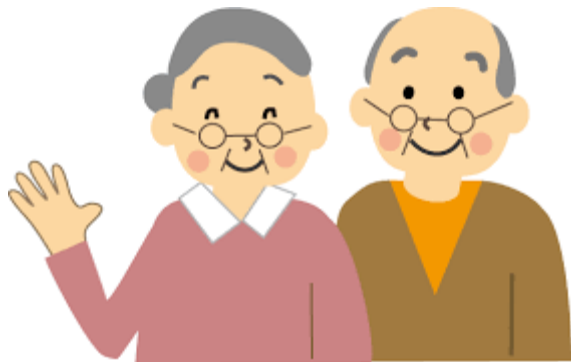


デジタルクリエイティブコンテスト

2017
にいがたデジタルコンテスト

オープンデータ
活用企画書部門

災害時高齢者避難アプリ



新潟コンピュータ専門学校
情報システム科 1年 小黑凌



アプリで利用するデータの種類

『小学校区別高齢者人口・世帯数』

→オープンデータとして（**すでに存在する**・まだ存在しない・その他）

→データURL: http://opendata.city.niigata.lg.jp/dataset/od-koureisya_od-koreisha290331

『屋内避難所』

→オープンデータとして（**すでに存在する**・まだ存在しない・その他）

→データURL: https://www.city.niigata.lg.jp/shisei/seisaku/it/open-data/opendata-gis/od-gis_kurashibosai/od-gis_okunaihinanjo.html

企画概要: 災害時高齢者避難アプリ

新潟コンピュータ専門学校
情報システム科 1年 小黒凌

アプリの目的と効果

災害時の高齢者の方の避難状況を確認できる

アプリ概要

緊急時の前に地区リーダーの人がその地区の**高齢者の家庭**の状況(同居人がいるかどうか)をアプリに登録してリスト化しておく。

緊急時には、地区のリーダーの人は管理者モードで起動し、地区に住んでいる人は通常に起動する。

そして地区に住んでいる人は家族や近所の高齢者の避難状況を**アプリに送信**し、リーダーはそれを受け取り、避難しているかいないかを把握する。

送信後は地図アプリと連携して現在の居場所から避難場所までの**ルートを表示**する。

アピールポイント

高齢者を地区の人が助けるという意味で地区別にリストを用意して、避難時に高齢者が家に取り残されないようにすることができる。避難した場所がばらばらになっても居場所がわかるため、災害時の混乱を避けることができる。



地区のリーダーの人は**管理者モード**として起動し、誰がまだ避難所に避難できていないかを把握する



地区リーダー



緊急速報が鳴った同時にこのアプリも**通知**を鳴らす

管理者モードで起動

ユーザーとして起動

地区に住んでいる人は自分の家族と近所のだれが避難したかをアプリに**送信**する。



災害が起こる前に家族構成と**近所の高齢者**を登録する



避難状況を報告

送信後...



地図アプリと連携して現在の居場所から避難場所までの**ルートが表示**される